

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 3 月 29 日作成)

小委員会名	高齢者・障がい者等居住小委員会	主 査 名：阪東 美智子 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：黒野 弘靖
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【目的】地域包括ケアシステムの中核であり前提となる「すまいとすまい方」の目指すべき方向性とその対策を検討する。</p> <p>【活動計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 年度：高齢者・障がい者施策の動向の整理</li> <li>・2017 年度：高齢者・障がい者の地域居住の現状把握と課題の整理</li> <li>・2018 年度：高齢者・障がい者の地域居住の現状把握と課題の整理、 グッドプラクティスの収集、高齢者・障がい者の住宅要件の整理</li> <li>・2019 年度：活動成果をまとめた資料 (事例集・ガイドライン等) の作成</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：2016 年度当初に 3 名を公募	
	阪東美智子 (国立保健医療科学院)、佐藤由美 (奈良県立大学)、西野亜希子 (東京大学)、石井敏 (東北工業大学)、大島千帆 (埼玉県立大学)、岡部真智子 (福山平成大学)、神吉優美 (奈良県立大学)、金晃敏 (東京大学)、鈴木健太郎 (杏林大学)、富安亮輔 (東洋大学)、野口祐子 (日本工業大学)、橋本彼路子 (一級建築士事務所 STUDIO3)、橋本美芽 (首都大学東京)、廣瀬雄一 (大和ハウス工業)、山脇博紀 (筑波技術大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2017 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j100-12/j130-12.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j100-12/j130-12.html</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (見学会を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者・障がい者施策の動向レビュー 新たな住宅セーフティネット施策や居住支援協議会の動向について随時情報収集を行った（継続中）。</li> <li>2. 学会内外の関連委員会との横断的な情報・意見交換の実施 日本福祉のまちづくり学会の住まいと福祉コミュニティ特別研究委員会の研究会活動への参画を含め、各委員が参画する学会等の活動について随時情報交換を行った。</li> <li>3. 高齢者・障がい者等の地域居住に関わる専門家・専門職との研究会の開催 認知症高齢者の住環境改善に関する研究に取り組む委員を中心に、最近の研究内容について報告会を実施した。</li> <li>4. 高齢者・障がい者等の地域居住に関する先進事例の収集・見学会の実施 広島県のNPO「もちもちの木」が既存建築物をリノベーションして運営している3施設（デイサービス・グループホーム、多世代シェアハウス）の見学会を実施した。</li> <li>5. 公開研究会の企画・実施 年度末の開催を計画していたが、企画・準備の時間が十分取れず、次年度に持ち越すこととした。</li> <li>6. 活動成果の公表 活動成果は随時オンラインストレージを活用して正委員間で共有した。また、正委員以外に本小委員会の活動に賛同・協力する者を含めたメーリングリストを活用し、情報共有を行った。</li> </ol>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 催し物の開催に際し、多忙な委員が多い中で早期に準備等を行うのが難しいため、今年度も能力開発支援事業委員会承認企画としての催し物が開催できず、正委員やメーリングリストの参加者を対象とする研究会活動が中心となった。</li> <li>2. 昨年度から今年度にかけて、委員のうち4名が転職や転勤など異動した。業務内容や移動距離が変わったことにより、委員会活動への参加が難しくなった者もいる。人材の流動性が高くなってきている中、委員の活動性を担保する工夫が必要だと感じる。</li> </ol>